

平成 19 年度通常総会議案について

平成 19 年度通常総会は去る 4 月 23 日に開催され、以下の総会議案がすべて原案通り承認されましたのでお知らせします。

平成 18 年度事業報告 (第 1 号議案)

I. 事業の概要

1. 研究発表会 (定款第 5 条 1 号)

(1) 3 月 14 日, 15 日の両日, 中央大学後楽園キャンパスにおいて, 第 99 回研究発表会を開催した。

- ・特別テーマ「モデリング」
- ・特別講演 (一般公開)

1) モデリングにおける内的整合性について

伊理正夫 (東京大学名誉教授)

2) 複雑なシステムの「わかりやすさ」の支援

—MENTALMODEL—

飯田裕康 (勸労働科学研究所)

3) 待ち行列モデリングとモデリング

滝根哲哉 (大阪大学)

4) モデリングによるゴルフ新打法の展開

赤池弘次 (統計数理研究所名誉教授)

- ・発表件数 128 件
- 一般発表 128 件 (うち部会報告 3 件)
- ・参加者数 432 名

(2) 9 月 12 日, 13 日の両日, 愛知大学車道キャンパスにおいて, 第 100 回研究発表会を開催した。

- ・特別テーマ「都市・交通・観光と OR」
- ・特別講演 (一般公開)

1) 観光の現状と展望—OR 手法導入の必要性—

須田 寛 (東海旅客鉄道(株)相談役)

2) INFORMS エーデルマン賞ファイナリスト賞受賞記念

「大学経営における OR の活用—戦略的レベルから日常業務まで—」

澤木勝茂 (南山大学教授)

3) 会長就任挨拶兼 IEEE Founders Medal 受賞記念

「価値創造に向けて」

青木利晴 (OR 学会会長・(株) NTT データ相談役)

- ・発表件数 154 件
- 一般発表 153 件
- 招待講演 1 件
- ・参加者数 397 名

2. シンポジウム (定款第 5 条 1 号)

(1) 3 月 13 日, 中央大学後楽園キャンパスにおいて, 第 55 回シンポジウム「データ解析の最前線」を開催した。講演 4 件, 参加者は 75 名であった。

(2) 9 月 11 日, 愛知大学車道キャンパスにおいて, 第 56 回シンポジウム「ここまで使える数理計画法」を開催した。講演 4 件, 参加者は 130 名であった。

(3) 10 月 12 日, 13 日, 京都大学にて, 第 18 回 RAMP シンポジウムを開催した。セッションは「組合せ最適化と離散アルゴリズム」, 「ロジスティクスにおける最適化」, 「計算幾何と最適化」, 「錐最適化における理論と応用」, 参加者は 162 名であった。

3. 普及活動 (定款第 5 条 1 号)

(1) 定例講演会

開催年月	テーマ	講師	参加人数	開催地区
18 年 3 月	50 年の回顧 (教育, 研究, 社会貢献, 大学運営)	児玉 正憲	32 名	中国四国
18 年 4 月	マスカスタマイゼーションからのモデリング—実際のモデルづくりへのアプローチ—	上野 信行	26 名	関西

(2) OR セミナー

- ・第 1 回「最適化の各論」を 6 月 8 日, 東京国際フォーラムで開催した。参加者 43 名。

題目	講師
組合せ最適化問題に対する実用的解法	柳浦 陸憲 (名古屋大学)
車両のリアルタイム投入指示問題: SA (シミュレーテッド・アニーリング) の適用	小谷 重徳 (首都大学東京)
GA (遺伝的アルゴリズム) を用いた交通信号制御パラメータの最適化	大野 純平 (㈱京三製作所)
CP (制約プログラミング) による裁断計画, 配車・配船計画	羽鳥 彰一 (横河情報システムズ(株))
LP と CP を併用したスケジューリング	石村 猛 (Dash Optimization (株))

- ・第 2 回「言葉とマーケティング」を 11 月 22 日, 東京

国際フォーラムで開催した。参加者 17 名。

題 目	講 師
消費者言語データのマーケティング活用	守口 剛 (早稲田大学)
CGM (消費者発信型メディア) を中心としたテキストデータの解析手法について	内野 寛治 (株富士通研究所)
IDM (Influence Diffusion Model) によるコミュニケーションマイニング	松村 真宏 (大阪大学)
テキストマイニングのマーケティングへの活用	上田 隆穂 (学習院大学)

(3) OR 企業フォーラム

開 催	テーマとゲストスピーカー	参加者
第 1 回 (19.2.19) 学士会館	TOTO のブランド・マーケティング戦略 ○東陶機器(株) 取締役社長 木瀬 照雄	36 名

(4) 企業事例交流会

- ・第 17 回企業事例交流会は、第 99 回研究発表会 (中央大学) にて 3 月 14 日開催。発表件数 4 件。
- ・第 18 回企業事例交流会は、第 100 回研究発表会 (愛知大学) にて 9 月 12 日開催。発表件数 6 件。

(5) 新宿 OR 研究会

昭和 55 年創設以来、年間 10 回の例会を開催している。テーマは OR 関係の最近の動向に留まらず会員推薦の各界の話題など極めて広範、かつ時宜に合ったもので、メンバーの啓発、懇親を行っている。会誌に開催案内を掲載し、新宿地区を中心に会員の幅広い参加を呼びかけている。

4. 刊行物 (定款第 5 条 2 号)

- (1) 機関誌「オペレーションズ・リサーチ」Vol. 51, No. 3~Vol. 51, No. 12 を各 3,400 部, Vol. 52, No. 1~Vol. 52, No. 2 を各 3,300 部発行した。
- (2) 論文誌 (Journal of the Operations Research Society of Japan) Vol. 49, No. 1~Vol. 49, No. 4 を各 2,750 部, 和文論文誌 (Transactions of the Operations Research Society of Japan) Vo. 49 を 2,650 部発行した。
- (3) 研究発表会アブストラクト集およびシンポジウム予稿集
春季・秋季研究発表会のアブストラクト集およびシンポジウム予稿集を発行した。
- (4) セミナーテキスト
「最適化の各論」「言葉とマーケティング」に関する

テキストを発行した。

5. 日本学術会議並びに他学協会との連携・協力 (定款第 5 条 3 号)

(1) 日本学術会議関連

平成 18 年 8 月から総合工学分野の連携会員として高橋幸雄氏 (OR 学会副会長・東京工業大学) が任命された。なお、FMES 関連では久米均氏 (QC), 圓川隆夫氏 (QC), 向殿政男氏 (信頼性) が連携会員として任命されている。

(2) 経営工学関連学会協議会 (FMES) 関連

高橋幸雄氏が FMES の会長 (2006 年 4 月から任期 2 年), 幹事は香田正人氏が務めることとなった。なお、FMES の事務局は平成 17 年 7 月から(株)日本品質管理学会が務めている。

平成 18 年度の FMES の活動は以下の通り、日本学術会議と連携してのシンポジウム開催および JABEE 認定審査であった。

① シンポジウム委員会

平成 18 年度のシンポジウムは平成 18 年 6 月 30 日「デジタル・エンジニアリングと経営工学」をテーマに、日本学術会議講堂において開催された。今年度の当番幹事学会は(株)日本品質管理学会であった。

② FMES/JABEE 委員会

当学会からは運営委員に香田正人氏 (渉外担当), 田村明久氏 (研究普及) が派遣されている。また、審査委員会にも OR 学会関係の有資格者を派遣し、経営工学分野の JABEE 認定審査に協力している。なお、JABEE の理事として FMES 会長の高橋幸雄氏を送っている。

(3) 日本技術者教育認定機構 (JABEE)

当学会は 2001 年 2 月に正会員として加入 (会費 1 口 10 万円) するとともに上記 FMES グループとして加入、その幹事会費分 (日本経営工学会, 日本品質管理学会と当学会の 3 学会が各 10 万円) を負担している。既述の通り、大学教育プログラムの認定作業を実施している。経営工学分野では本年度、1 大学で実施された。

(4) (株)日本工学会関連

工学系 94 学協会の連合体である(株)日本工学会の諸活動に協力し、また同会事務研究委員会に委員 1 名 (事務局長) が参加している。

(5) 横断型基幹科学研究団体連合 (略称: 横幹連合)

この連合は「社会発展の基礎となる新しい価値体系である横断型基幹科学技術の重要性を提唱し、その創造と進歩に資する活動を行うこと」を目的に計測自動制御学会, FMES メンバーなど 30 学会が参加して、

平成15年4月に設立総会を開催し、正式発足した。
当学会からは代議員として香田正人氏（筑波大学）、
理事として鈴木久敏氏（筑波大学）が派遣されている。

6. 他学協会との交流（定款第5条3号）

他学協会の下記講演会等に協賛、後援した。

- ・第22回京都賞記念ワークショップ（勸稲盛財団）
- ・2006年度春季全国研究発表大会/第52回春季全国大会（経営情報学会、オフィスオートメーション学会）
- ・計測自動制御学会関西支部平成18年度講習会（計測自動制御学会）
- ・計測自動制御学会システム・情報部門学術講演会2006（計測自動制御学会）
- ・第2回「安全・安心の科学」シンポジウム（計測自動制御学会）
- ・第56回システム制御情報講習会（システム制御情報学会、他）
- ・第49回自動制御連合講演会（システム制御情報学会、他）
- ・計算科学シンポジウム（情報処理学会）
- ・スケジュールリング・シンポジウム2006（スケジュールリング学会）
- ・第36回信頼性・保全性シンポジウム（日本科学技術連盟）
- ・品質機能展開国際シンポジウム（日本科学技術連盟）
- ・第8回日本感性工学会大会・総会（日本感性工学会）
- ・生産システム部門講演会2006（日本機械学会）
- ・スケジュールリング国際シンポジウム2006（日本機械学会）
- ・第45回ビジネスショー KANSAI 2006（日本経営協会）
- ・第25回日本シミュレーション学会大会（日本シミュレーション学会）

レーション学会)

- ・第14回春季信頼性シンポジウム（日本信頼性学会）
- ・第19回秋季信頼性シンポジウム（日本信頼性学会）
- ・第22回ファジィシステムシンポジウム in 札幌（日本知能情報ファジィ学会）
- ・SCIS & ISIS 2006（日本知能情報ファジィ学会）
- ・計測・制御・システム工学部会システムフォーラム（日本鉄鋼協会）
- ・バシュリエーファイナンス協会第4回世界会議（バシュリエーファイナンス協会）

7. 国際協力（定款第5条3号）

- (1) IFORS (International Federation of Operational Research Societies) の副会長として大山達雄氏（政策研究大学院大学）を選出し、各国のOR学会との交流、協力を図った。
- (2) APORS (Association of Asian-Pacific Operational Research Societies) の副会長として大山達雄氏（政策研究大学院大学）を選出し、アジア・太平洋地域のORの発展と加盟学会の情報交換に協力した。
- (3) IAOR (International Abstracts in Operations Research) の編集、発行に協力し、日本の文献抄録を送付するとともに、IAORの国内頒布に協力した。
- (4) APJOR (Asia-Pacific Journal of Operational Research) の編集、発行、頒布に積極的に協力した。
- (5) EJOR (European Journal of Operational Research) の編集、頒布に協力した。

8. 受託研究活動（定款第5条4号）

学会の公益活動の一環として、本年度も前年度に引き続き、(財)グローバル・インフラストラクチャー研究財団からの受託研究を「世界のインフラストラクチャー」研究部会を窓口を実施した。

9. 研究部会・研究グループ（定款第5条4号）

研究部会・研究グループ終了/中間報告

- ◎印 終了を示す
- *印 研究グループを示す
- ☆印 常設部会を示す

部 会 名	主査幹事	メンバー	開催	内 容	場 所
☆待ち行列	小野里好邦 (群馬大学) 河西 憲一 (群馬大学)	22名	6回	昨年度同様、待ち行列理論や情報ネットワークの性能評価に関する講演が多かったが、情報ネットワークの方式提案や制御アルゴリズムの講演も増えた。また、チュートリアル講演を通じて初学者への普及活動も行われた。	東京工業大学
☆OR/MSとシステム・マネジメント	山田 善靖 (東京理科大学) 松林 伸生 (慶應義塾大学)	90名	2回	OR/MSの成果を経営システムのマネジメントに有効に利用する方法の研究を目的とし、高度情報通信環境下におけるOR/MSの活用実態についての知見収集と共に、企業経営に活かすための概念、方策等を検討した。	東京工業大学
☆数理計画(RAMP)	藤重 悟 (京都大学) 平井 広志 (京都大学)	30名	1回	第18回シンポジウム(セッション:組合せ最適化と離散アルゴリズム、ロジスティクスにおける最適化、計算幾何と最適化、錐最適化における理論と応用)を10月12、13日に京都大学にて開催(162名参加)。	京都大学
☆統合オペレーション	山田 郁夫 中野 一夫 (構造計画研究所)	14名	2回	企業の環境保全活動へのSCM的アプローチについて、家庭用パソコンのリサイクルなどの具体例に基づいて議論を深めた。また、中小企業の経営戦略と政策支援について有意義な意見交換ができた。	学士会館

部 会 名	主査幹事	メンバー	開催	内 容	場 所
☆評価のOR	森田 浩 (大阪大学) 関谷 和之 (静岡大学)	14名	5回	毎回数名の講演者を招き、ORでの評価手法、意思決定手法に関する研究発表を計14件行った。他にもDEAシンポジウムを2月に大阪で開催し、海外の研究者による基調講演1件、招待講演4件、一般講演15件を行った。	政策研究大学院大学
☆意思決定法	木下 栄蔵 (名城大学) 大屋 隆生 (電力中央研究所)	26名	2回	研究部会とAHPシンポジウムを開催した。AHPを中心とした意思決定法に関する発表により、意思決定法の理解を深め、企業や行政などの政策立案評価、マネジメントにおける適用性を高めることができた。	名城大学
◎21世紀モノ造りマネジメント	伊呂原 隆 (上智大学) 成松 克己 (東芝)	21名	10回	製造業におけるマネジメントの今後の方向性を探るべく、製造業の現場マネジメントからマクロな経済学からのアプローチまでの幅広い話題について議論を深めた。	青山学院大学
◎世界のインフラストラクチャー	栗田 治 (慶應義塾大学) 三浦 英俊 (明海大学)	20名	11回	インフラストラクチャー問題にOR的に接近し、①基本構造の解明とシナリオ分析、②ガスパイプラインの輸送計画モデル、③経済性評価モデル、④エコ・エネルギー都市モデルという4つの面で研究を推進した。	日本GIF財団
◎不確実性理論の経営科学への応用	蔵野 正美 (千葉大学) 岩村 寛三 (城西大学)	9名	4回	不確実性理論の応用として、柔軟でソフトな数理モデルの構成法、解析法、アルゴリズムの研究を推進した。学習アルゴリズムによる解法、Credibilityとファジィエントロピー理論に特記すべき成果を得た。	千葉大学
◎経営・教育とOR	椎原 正次 (大阪工業大学) 大角 盛広 (神戸学院大学)	10名	4回	本年度は4回の研究会を開催した。これらの研究会で、イノベーションと人材教育やe-Learningを活用した授業方法等について講演された。いずれも活発な質疑応答が行われ有意義な研究会となった。	大阪工業大学
サプライチェーンネットワーク	高井 英造 (フレームワークス) 草刈 君子 (SAS Institute Japan)	180名	8回	2年間で18回の研究会を開催した(延べ参加者520名)。OR学会や国際会議でSCM関連セッションを実施した。実務家と専門家の協働によるサプライチェーンネットワーク合理化への新しい展開を研究し、資料と記録はホームページで公開している。	青山学院大学
食糧・環境問題における数理的手法	伊藤 健 (東北大学) 毛利進太郎 (神戸学院大学)	19名	5回	年間5回の研究集会において、環境および食料問題に関連する取り組みや、数理最適化の適用事例を題材とした議論を行い、ORの研究普及に繋がる多くの知見や数理的手法を構成員間で共有した。	東北大学
マーケティングインテリジェンス	中川慶一郎 (NTT データ) 高橋 彰子 (NTT データ)	25名	7回	本研究部会では、実データをよりどころとした現代マーケティングの諸問題について議論した。実際にデータを提供し、分析結果を発表しあうデータ解析コンペティションを開催した。	東京理科大学
ORと実践	成瀬 喜則 (富山商船高等専門学校) 金子 宏之 (小松短期大学)	13名	5回	北陸地区を会場にして、通信ネットワーク、都市形態、自動車流通、教育における問題分析をテーマにして、ORの具体的な応用に関する研究発表が多く行われ、活発な議論がなされた。	富山県民会館
計算と最適化	村松 正和 (電気通信大学) 森口 聡子 (上智大学)	24名	5回	4回の定例研究会と、合宿形式の研究発表会を1回開催した。定例研究会では毎回2名の講演者を招き、毎回24名以上の参加者があった。合宿形式の研究発表会は筑波大学で行い、2件の招待講演と、24件の研究発表が行われた。	上智大学
ゲーム理論と経済工学	武藤 滋夫 (東京工業大学) 福田恵美子 (防衛大学校)	50名	9回	本年度は国内外から合計16件の報告があった。理工学、人文社会の各分野におけるゲーム理論の発展性および応用の可能性について、有意義な意見の交換を行うことができた。	東京工業大学
コンピュータシミュレーション	加藤 直樹 (京都大学) 藤江 哲也 (兵庫県立大学)	16名	5回	毎回2名の講師を招き、最適化理論、アルゴリズム理論など計算に関する研究発表が行われた。理論に限らず応用的な内容もあり、幅広く議論することができた。	京都大学
知的決定支援の理論と方法	乾口 雅弘 (大阪大学) 鶴見 昌代 (大阪大学)	15名	5回	5回の研究会を開催し、意思決定論や最適化に加えて、メタフェーリスティック、データマイニング、ファジィ理論などの知能工学的手法も視野に入れて、知的意思決定支援の理論や方法について検討した。	大阪大学
情報ネットワーク性能評価	岳 五一 (甲南大学) 米山 寛二 (兵庫県立大学)	14名	6回	マルチメディア通信、アドホックネットワーク、性能解析・評価・最適化手法などに関して最先端の理論的研究のみならず、実践的な研究についても講演していただき、産官学の学術交流と若手研究者の育成を推進している。	甲南大学
不確実性環境下での意思決定の理論と応用	菊田 健作 (兵庫県立大学) 川勝 英史 (流通科学大学)	11名	5回	不確実な要素を含む問題に関連した内容を中心に、ゲーム理論、在庫管理、信頼性、情報科学、経済学などの分野から報告をしていただいた。活発な議論や質疑応答を通じて研究交流を行い、多くの知見を得ることができた。	流通科学大学
若手OR研究者の会	増山 博之 (京都大学) 檀 寛成 (関西大学)	7名	5回	本研究部会の設立趣旨に則り、待ち行列理論、確率モデル、数理計画、組合せ最適化など、OR諸分野に渡る11件の研究発表が行われ、若手研究者の学際的交流が実現された。	京都大学

10. 表彰 (定款第 5 条 5 号)

(1) 日本オペレーションズ・リサーチ学会文献賞

第 35 回文献賞の選考を行い、以下のとおり決定した。

- Interior Point Trajectories and Homogeneous Model for Nonlinear Complementarity Problems over Symmetric Cones
SIAM Journal on Optimization, Vol. 17, No. 4

吉瀬章子 (筑波大学)

(2) 日本オペレーションズ・リサーチ学会文献賞奨励賞

第 2 回文献賞奨励賞の選考を行い、以下のとおり決定した。

- Minimum augmentation of local edge-connectivity between vertices and vertex subsets in undirected graphs
Discrete Applied Mathematics 154

石井利昌 (小樽医科大学)

- Minimal Ellipsoid Circumscribing a Polytope Defined by a System of Linear Inequalities
Journal of Global Optimization 34

- A linear classification model based on conditional geometric score
Pacific Journal of Optimization Vol. 1, No. 2

後藤順哉 (筑波大学)

- Algorithmic Computation of the Time-Dependent Solution of Structured Markov Chains and Its Application to Queues
Stochastic Models, Vol. 21

増山博之 (京都大学)

(3) 日本オペレーションズ・リサーチ学会普及賞

第 32 回普及賞の選考を行い、以下のとおり決定した。

中野一夫 (株構造計画研究所)

(4) 日本オペレーションズ・リサーチ学会実施賞

第 31 回実施賞の選考を行い、下記のとおり決定した。

南山大学 OR チーム「プロジェクト N」

(5) 日本オペレーションズ・リサーチ学会事例研究賞

第 27 回事例研究賞の選考を行い、以下のとおり決定した。

- 消費者行動に基づく商品のブランドの構造分析
平成 17 年度データ解析コンペティション

住田 潮, 森 俊樹, 齊藤晃一, 高橋一樹, 菅谷健人, 小池雄平, 平野智章 (筑波大学)

- セル生産・水すまし・かんばん方式援用生産システムにおける部品在庫管理のシミュレーション最適化
オペレーションズ・リサーチ Vol. 51, No. 7

高桑宗右エ門, 三輪冠奈 (名古屋大学)

- サッカー選手の DEA の視点からの評価

オペレーションズ・リサーチ Vol. 50, No. 6

廣津信義 (順天堂大学),

秋山大輔, 上田 徹 (成蹊大学)

(6) 日本オペレーションズ・リサーチ学会業績賞

第 8 回業績賞の選考を行い、以下のとおり決定した。

川島幸之助 (東京農工大学)

(7) 日本オペレーションズ・リサーチ学会学生論文賞

第 24 回学生論文賞の選考を行い、以下のとおり決定し、授賞を行った。

- Packing Non-Convex Polygons by Iterated Local Search Based on Nonlinear Programming

今道貴司 (京都大学・修士論文)

- 面積付き平面グラフに対する定数角形直交描画

川口晃史 (京都大学・卒業論文)

- 対象錐計画法を用いた判別問題の解法

北原知就 (東京工業大学・修士論文)

- 木構造データから有効なパターンを抽出するためのグラフマイニングに関する研究

中原孝信 (大阪府立大学・修士論文)

- 強連結有向グラフ上の整合円順列

松田拓朗 (東京大学・修士論文)

- 段ボール製造スケジューリング問題のアルゴリズムと計算の複雑さに関する研究

松本一輝 (関西学院大学・卒業論文)

11. 支部活動 (定款第 5 条 6 項)

支部ごとに次のとおり活動した。

支部活動報告

	北海道		東 北		中 部		関 西		中国四国		九 州	
運営会議	支部総会	1 回	支部総会	1 回	支部総会	1 回	支部総会	1 回	支部総会	1 回	支部総会	1 回
	運営委員会	4 回	運営委員会	1 回	運営委員会	1 回	運営委員会	2 回	運営委員会	2 回	運営委員会・	
					幹事会	6 回					幹事会	3 回
研究会	研究会	1 回	研究会	2 回	研究会	1 回	研究会	1 回	2 研究部会		研究会	3 回
					支部研究発表会	1 回			1 研究グループ			

	北海道	東 北	中 部	関 西	中国四国	九 州
講演会	講演会 1回	講演会 2回	特別講演会 1回 支部講演会 1回	講演会 2回	講演会 6回	総会講演会 1回 講演会 2回
講習会						
出版	シンポジウム報文集		支部ニュース 5回 アブストラクト集 1回	支部ニューズレター 1回		
その他	シンポジウム 1回		支部シンポジウム 1回 中部 OR 研究会 2回 平成 18 年秋季研究発表会 第 56 回シンポジウム	支部ホームページの運営	定例シンポジウム 1回 支部創立 40 周年記念事業 1回	

II. 処務の概要

1. 役員に関する事項

理事 非常勤
定数：12 人から 18 人（現在：18 人）
任期：2 年

監事
定数：2 人 非常勤
任期：2 年（現在：2 人）

2. 職員に関する事項（略）

3. 会議に関する事項

(1) 臨時総会

開催年月日	議 事 事 項	結果
18.3.14	1. 平成 18 年度事業計画の件 2. 平成 18 年度収支予算の件	承認 "

(2) 通常総会

開催年月日	議 事 事 項	結果
18.4.24	1. 平成 17 年度事業報告の件 2. 平成 17 年度収支計算報告および監査報告の件 3. 平成 18 年度 19 年度役員選任の件 4. 平成 18 年度 19 年度代議員選任の件	承認 " " "

(3) 理事会（略）

(4) 支部長会議（略）

(5) 委員会・幹事会（略）

4. 許可・認可・承認・証明に関する事項

該当なし

5. 契約に関する事項

契 約 名：50 周年記念アーカイブ制作

契 約 先：(有)ジェイプリンテック

契約金額：1,775,865 円

作業期間：2006/11/1～2007/1/31

作業内容：OR 学会の資産であるこれまで発行された機関誌、論文誌、研究発表会アブストラクト集を電子化し、アーカイブを制作し公開する。

6. 寄付金に関する事項

今年度近藤賞基金を立ち上げ、総口数 1,217 口、総額 6,803,000 円の寄付金があった。

7. 主務官庁からの連絡事項等（略）

8. 会員状況

(1) 入退会内訳

	名誉 会員	正会員	学生 会員	賛助会員		合 計		
				A 種	B 種			
平成18年2月末日	12	2,157	226	65 (76)	25 (25)	2,485(101)		
平成18年度	入 会		45	90	1 (1)	3 (3)	139(4)	
	移動	学→正		51	△51			
		正→学						
		正→名						
	退 会	△1	△113	△18	△7(△9)	△3(△3)	△142(△12)	
	除 名		△29	△25			△54	
	復 活		1				1	
純増減	△1	△45	△4	△6(△8)	0 (0)	△56(△8)		
平成19年2月末日	11	2,112	222	59 (68)	25 (25)	2,429(93)		

()は口数

(2) 地域別内訳

	名誉会員	正会員	学生会員	賛 助 会 員	
				A 種	B 種
本 部	7	1,223	150	43 (51)	24 (24)
北 海 道		69	4	2 (2)	
東 北	1	82		1 (2)	
中 部	1	206	20	4 (4)	
関 西	2	298	38	6 (6)	1 (1)
中国・四国		124	3	2 (2)	
九 州		110	7	1 (1)	
合 計	11	2,112	222	59 (68)	25 (25)

()は口数

平成18年度収支計算書(第2号議案)

収支計算総括表

平成18年3月1日から平成19年2月28日

(単位：円)

1 収入の部	
科 目	一 般 会 計
基本財産運用収入	1,500
入会金収入	121,500
会費収入	39,646,950
事業収入	15,981,952
その他収入	16,125,989
当期収入合計	71,877,891
前期繰越収支差額	7,335,244
収入合計	79,213,135
2 支出の部	
科 目	一 般 会 計
事業費	46,083,847
管理費	24,640,684
その他支出	1,000,000
当期支出合計	71,724,531
次期繰越収支差額	7,488,604
(当期収支差額)	(153,360)
支出合計	79,213,135

平成19年度20年度役員候補者名簿

(第3号議案)

会務役職	定数	候 補 者	備考(非改選役員)
会 長	1 (0)		青木利晴
副会長	3 (2)	川島幸之助	大山達雄
"		野村淳二	
庶 務	2 (2)	矢島安敏	
"		*齋藤司郎	
国 際	1 (1)	鈴木勉	
研究普及	2 (1)	久野誉人	羽鳥彰一
編 集	2 (1)	山下英明	矢部博
会 計	1 (0)		檜尾博
渉 外	1 (0)		香田正人
広 報	1 (0)		中川慶一郎
無 任 所	3 (1)	木村俊一	河合一
			吉野秀明
監 事	2 (1)	逆瀬川浩孝	高橋誠

()内は平成19年度改選数 ただし*印は任期1年